

とくみのポイント!

－分会で集まることを大切にして、自主的に計画や目標をつくりましょう－



★いそがしい中でも、まず集まることから。みんなで担(た)うことが大切です。

まず集まって、対話(たいわ)の大切(たいせつ)さを共有(きょうゆう)しましょう。アイデアを出し合(い)い、具体的な計画(けいかく)や目標(きョく)を決めることが大切です。“力(ちから)持ち”に頼(たの)らずに、みんなで分(ぶん)担(たん)することもポイント。

数値(すうじ)目標(きョく)だけにこだわらず、「〇〇さん、こんな話(はな)してたよ」「組合(くみあい)に誘(まね)ったらこんな反(はん)応(おう)だった」・・・など報告(ほうこく)しあいましょう。集(あ)まって話(はな)すことで、次(つぎ)にどうするかも自然(しぜん)にアイデアが出てきます!

★各組織(かくそくし)のとくみと一体(いつたい)にすすめましょう!

各組織(かくそくし)で現在(げんざい)とくみんでいる「組織(そくし)拡大(くわだい)運動(うんどう)」と一体(いつたい)に“対話(たいわ)”をすすめましょう。「新採(しんさい)総(そう)あたり」「〇〇総(そう)あたり」など、グッズを手渡(てわた)して加入(かじ入)を呼びかけるとくみなどひろげながら、職場(しょくば)での対話(たいわ)を意(い)識(し)的にすすめることがポイント。“自(みづか)分の言葉(ことば)”で組合(くみあい)を語ることを大切にしましょう。

★全国(ぜんこく)の団結(だんけつ)で“5万人(ごまんにん)”との対話(たいわ)をやりきりましょう

“5万人(ごまんにん)”って、ものすごい数(かず)に思(おも)えますか? すべて(すべて)の組合(くみあい)員(いん)の団結(だんけつ)があれば、“5万人(ごまんにん)”は決(け)して不可能(ふかふか)な数字(すうじ)ではありません。た(た)と(と)え(え)ば、すべて(すべて)の組合(くみあい)員(いん)が2人(ににん)と対話(たいわ)することができれば、5万(ごまん)をはるかに超(こ)える対話(たいわ)が実現(じつげん)します。すべて(すべて)の組合(くみあい)員(いん)の団結(だんけつ)で、この対話(たいわ)運動(うんどう)を何(なに)としてもやりとげましょう。

★対話(たいわ)は、一度(いちど)きりではなく“くりかえし”がポイント

声(こゑ)をかけ、話(はな)しを聞(き)いたら、そのつな(つな)がり(が)りを大切(たいせつ)に、継続(けいぞく)的(てき)に対話(たいわ)しましょう。加入(かじ入)をその場(そのば)で決(け)められる人(ひと)は、き(き)っ(っ)と多(おほ)くありません。一度(いちど)、組合(くみあい)に誘(まね)ったら意(い)識(し)的に、くりかえし声(こゑ)をかけま(ま)しょう。いろん(いろん)な人(ひと)が声(こゑ)をかけるのもいいですね。



日高教
「5万人対話運動」
 のてびき
 職場(しょくば)の困難(くわんなん)を希望(きぼう)にかえる!
 職場(しょくば)活動(かどく)の活性化(かっせきか)と組織(そくし)の強化(きやうか)・拡大(くわだい)をめざす



“10人に声をかけると1人加入”は、たしかな法則!

誰でも組合(くみあい)のなかまを増(ぞう)やしたいですね。そのためには“声(こゑ)かけ”が必要です。「全国(ぜんこく)で5千人(ごせんにん)の仲間(なかま)を迎(むか)えるために5万人(ごまんにん)と対話(たいわ)しよう」という目標(きョく)は、残念(ざんねん)ながら、まだ達成(たっせい)されていません。「加入(かじ入)者(しや)数(すう)」だけを追(お)いかけるのではなく、「加入(かじ入)を呼びかけるとくみを追求(すいしゆ)する」という視(し)点を大切(たいせつ)に、全国(ぜんこく)の職場(しょくば)から対話(たいわ)をひろげま(ま)しょう。2011年度(どくど)、何(なに)としてもこの目標(きョく)を達成(たっせい)ま(ま)しょう!

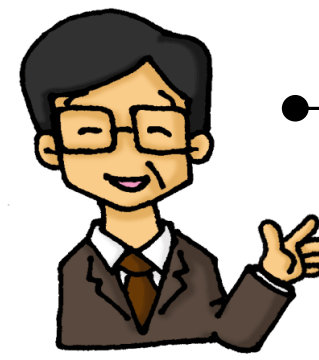
“対話(たいわ)のチカラ”で職場(しょくば)がかわります!

この対話(たいわ)運動(うんどう)、加入(かじ入)者(しや)を増(ぞう)やすことだけが目的(てき)ではありません。いま、職場(しょくば)は超多忙(たほまじ)です。一人(ひとり)ひとりの教職員(きョくしん)が、それぞれ目(め)の前の仕事(しごと)を全(ぜん)うすることに精(せい)一杯(いぱい)ですね。協力(きやうり)・共同(きょうどう)がしにくくなって、みんなで考(かん)えたり議(ぎ)論(ろん)したりする余(あま)裕(ゆう)のない学校(がく)も多い(おほい)のではない(ではない)でしょうか。対話(たいわ)のチカラで同僚(どうりょう)とつな(つな)がって、安心(あんしん)して働(はたら)ける職場(しょくば)にしたいですね。



組合(くみあい)への信頼(しんらい)をひろげ、安心(あんしん)して働(はたら)ける学校(がく)に!

“声(こゑ)をかけ”“話(はな)しをきく”ことは、安心(あんしん)して働(はたら)ける職場(しょくば)をつくること。同僚(どうりょう)の思(おも)いや悩(なや)みを知る(しる)ことは、一人(ひとり)ひとりの願(ねが)いをつむいで職場(しょくば)に世論(せろん)をつくること(こと)になります。組合(くみあい)の存在(そんざい)を知ら(し)らせて、とくみを理(り)解(かい)してもらうことは、組合(くみあい)への信(しん)頼(らい)をひろげること(こと)です。そして、率直(そつじき)に加入(かじ入)をよびかけることは、仲間(なかま)をふやすこと、組合(くみあい)を強(きやう)く大(おほ)きくすること(こと)につな(つな)がります。



まず、声をかけて、話しをきくことから。一人ひとりの願いをつないで職場の要求にしよう!

あなたの一声が、職場と学校を変えるチカラになります!

“対話”のチカラ①

— 声かけは、安心と信頼を育む —

職員室に会話がありますか? 子どものこと、担当する仕事のこと、ざっくばらんに相談しあえる雰囲気でしょうか? 管理的な職場がふえ、長時間過密労働が広がるなかで、一人ひとりが仕事を抱えこみやすい状況があります。「職場での支えあいが希薄になった」ともいわれています。

「だいじょうぶ?」「困ったことない?」「相談にのってほしいんだけど」・・・悩みや困難に寄り添う対話は、安心をひろげ信頼関係をきずくもの。同僚への声かけは「連帯と助けあいの職場づくり」の一歩になります。



部内の先生との関係もうまくいかず、自分は「社会的に不適合な人間」なんだろうと漠然と感じていました。そんな時、組合の先生から食事に誘われ、不安に思っていることをお話することができました。

同じ職場に「おなかの中にしまい込んでいる思いを打ちあけられる人がいる」ということは、当時の私にとって大変心強いことでした。組合活動の基本は“人と人のつながり”です。その最も基本的な、ともすると忘れてしまうくらい当たり前のことが、いま、求められているのではないのでしょうか。(ある青年教職員)

ダイジョーブ?
手伝おうか?



ああ…すみません
正直まいてます

“対話”のチカラ②

— 要求をつかんで、職場に世論をつくる —

対話は、一緒にはたらく仲間の思いや願いを知ること・・・要求をつかむこと。

話しをしながら、問題解決の糸口をいっしょに考える。それを要求として見える形にしていくことは、「こんな職場にしよう」「こんな学校にしたい」と共感をひろげ、職場に世論をつくることになります。

近い将来、「労働基本権」が回復されます。職場の要求をつかみ、要求の多数派をめざすとりくみとしても対話をすすめましょう。

あーそれ私も
気になってたんだ!

そうだね。そこを変え
たらうまくいくかも



・・・同じような疑問を教職員や保護者をはじめとする大人たちも感じているだろう。しかし、疑問に思ったら立ちどまり、自分の頭で考えたり、仲間と話してみるということが難しくなっている。このような思考や対話のためのゆとりを教育の場から奪ったことは、今日の「教育改革」がもたらしたもっとも深刻な弊害の一つである(東京大学・勝野正章さん)

“対話”のチカラ③

— 組合を知ってもらうことは、組合への信頼をひろげること —

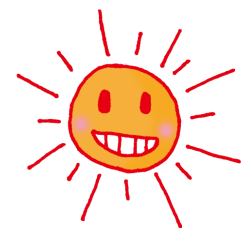
組合はみんなの願いをかなえるためにとりくんでいるところ。組合のとりにくみを伝えて、理解してもらうことは、組合への信頼をひろげることになります。

職場だけでは見えにくい教育政策の動向や賃金交渉の状況、様々な権利はどのように使えるかなど、職場のみなさんは情報を待っています。見える活動を心がけながら、組合の存在意義や魅力を自分の言葉で伝えることを大切にしましょう。

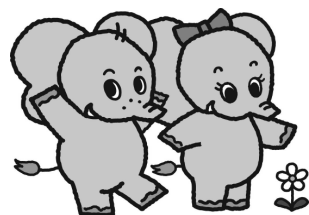
組合ってそうなんだ。
私も仲間になりたい!

そうなんだー。どん
なことやってるの?

組合って知ってる?
ボクも入ってるんだ



「共済」は“助けあい”だよ。
全教共済のこと、ボクたちのこと
みんなに知ってもらおうよ!



・・・いままで、組合がどんなことをしているところか、よく知りませんでした。職場の先生に話しをきいて、みなさんが、子どもたちのため、私たち教職員のために地道な活動をつづけていることが分かりました。毎日の仕事に追われている私に、何が出来るかまだわかりませんが、仲間に入ってがんばりたいと思います。(ある青年教職員)

